

■「わらしべ長者」の経済学

▼三七頁▲

発問 「この点」(三七・7)とは、どのような点か。

思

答 少ない元手で楽をして大もうけする点。

補充 筆者が「経済学者としては、『わらしべ長者』

が勞せず大もうけの意味に解釈されるのは大変残念なことだ」(三七・9)と言うのはなぜか。**思**

答 「わらしべ長者」には、交換による経済学的価値の創造という経済の基本が美しく表現されており、経済学の視点で見ると非常に興味深い話であるから。

補充 「交換による経済学的価値の創造」(三七・14)

とは、どういうことか。**思**

答 自発的な取引によって経済的な利益が生まれ、さらに取引に参加したすべての人たちは利益を受け取ることができるということ。

補充 「自発的な双方の合意」(三七・16)の前提と

なるのは、どのようなことか。**思**

答 交換に応じる双方にとって、交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものであるということ。

▼三八頁▲

補充 「その差」(二八・2)とは何か。**思**

答 交換前の状態と交換後の状態の差。

補充 「断ろうと思えば断れる」(二八・3)とは、

どういうことか。**思**

答 交換によって自分の目的にかなった利益を得られることが見込めなければ、交換に合意しなくてもかまわないということ。

発問 「この原則」(三八・4)とは、どのような原則か。**思**

答 自発的交換による経済学的価値創造の原則。

発問 「子供にとっては」(三八・6)で始まる形式

段落は何の具体例か。本文中から十五字で抜き出せ。

思

答 ほかに人たちが利を得ていること(三八・5)

発問 「特定の取引に貨幣が媒介するかどうかとい

うこと自体は問題ではない」(三八・14)のはなぜか。**思**

答 物々交換であっても金銭が仲立ちする交換であっても(その交換が自発的で交換前よりも交換後の状態の方が好ましいものになるという)経済学的な価値創造の原則に変わりはないから。

補充 「特定の取引に貨幣が媒介するかどうかとい

うこと自体は問題ではない」(三八・14)とは、どういうことか。それを説明した次の文の空欄に適切な語句を入れよ。**思**

直接的な物々交換から「 1 」を仲立ちとする交換になったとしても、その交換が「 2 」であり、交換後に「 3 」という点では同じであるということ。

答 1 貨幣

2 自発的

3 価値が創造されている

発問 「より本質的なのは、専門用語で言う『市場の

非完備性』ということである」(三八・16)とは、どういうことか。次の空欄A・Bに適当な言葉を入れて答えよ。**思**

わらしべ長者の取引において本質的な問題は「 A 」という点になく、「 B 」という点にある。

答 A：貨幣が媒介するかどうか

B：登場する人々がそろって共通に取引できる場が備わっていない

▼三九頁▲

発問 「わらしべを持った男が屋敷を手にする」(三

九・3)には、どのような条件が必要か。思

答 登場する人々が直接に取引できる場がなく、取引を媒介できる人物がわらしべを持った男だけという条件。

補充 「これらの人」(三九・6)とは誰か。本文中から十字以内で抜き出せ。思

答 物語に登場する人々(9字)(三九・1)

脚問 「これらの人たちの間に眠る経済学的価値」(三九・8)とは、どのようなものか。思

答 その場では取引できない人たちであっても、機会があれば得ることができるような利益。

補充 「これらの人たちの間に眠る経済学的価値」(三九・8)とあるが、「眠る」を言い換えたものとして最も適当なものを、次から選べ。思

ア 自発的にある
イ 客観的にある
ウ 潜在的にある
エ 創造的にある
オ 伝統的にある
ウ

補充 「そういう役割」(三九・9)とは何か。本文中から二十五字で抜き出せ。思

答 これらの人たちの間に眠る経済学的価値を引き出すこと(三九・8)

発問 「そのような役回り」(三九・11)とは、どのようなものか。思

答 物語に登場する人々の間で取引を媒介できる唯一の人物として大もうけした役回り。

発問 「無視できない重要な経済活動」(三九・12)とは何と何か。思

答 人を喜ばせる創造的なアイデアによって単なるわらしべに価値を生み出したことと、死にそうなる馬を引き取ることによってリスクの大きい事業に

投資したこと。

発問 「わらしべにアブを結びつけた」(三九・14)のが経済活動と言えるのはなぜか。思

答 人を喜ばせる独創的なアイデアでおもちゃを生産したことになるから。

補充 「タダで手に入った」(三九・15)を言い換えた箇所を、本文中から五字で抜き出せ。思

答 原価がゼロ(三九・16)

発問 「原価がゼロ」(三九・16)ということとは、どういうことか。思

答 タダで手に入ったということ。

発問 「人を喜ばせる創造的なアイデア」(三九・16)とは、具体的にはどのようなことか。思

答 わらしべにアブを結びつけて、おもちゃを作ったこと。

▼四〇頁▲

補充 「対価」(四〇・1)とは、この取引では具体的に何のことか。思

答 ミカン

脚問 「引き取る時点では倒れていて、死にそうであったということが見逃せない」(四〇・3)のはなぜか。思

答 交換する馬が死にそうであるというリスクを含む取引は、将来の利益を見込んで行う「投資」という経済活動であると考えられるから。

発問 「これ」(四〇・5)が指す内容を答えよ。思
答 馬が助からない可能性。

発問 「これ」(四〇・6)が指す内容を答えよ。思
答 死ぬかもしれないというリスクごと馬を買い取ったこと。

補充 「リスク」(四〇・六)を漢字三字で言い換えよ。**知**

答 危険性

補充 「リスクの大きい事業に投資をした」(四〇・

7)とは、この取引では具体的にどういうことか。

思

答 死ぬかもしれない馬と、自分が持っていた反物を取り換えたということ。

補充 「リスクをとってなされた投資の成果を享受

することと、労せず富を得ることには大きな差がある」(四〇・7)とあるが、その「差」とはどういうことか。それを説明した次の文の空欄に入る適切な語句を、本文中から九字で抜き出せ。**思**

「かどうかということ。」

経済活動をしている(三九・12)

補充 「これ」(四〇・10)が指す内容を答えよ。**思**

答 ミカンと反物を取引してもうけたこと。

思

補充 「何か特殊な出来事が起こったというわけではない」(四〇・10)とは、どういうことか。**思**

答 一般的な経済活動の原則を逸脱した出来事ではないということ。

補充 「畑で採れた余ったミカンを街中までトラックで運び、道行く人に売ると」本質的には同じ」(四〇・11)とあるが、どういう点で同じなのか。**思**

答 欲している人の元に物を動かすことが、相互に利益をもたらす経済活動であるという点。

思

補充 「立派な経済活動」(四〇・12)とあるが、同じ意味の表現をこの形式段落から抜き出せ。**思**

答 経済の中で大切な役割を占めている(四〇・14)

補充 「立派な経済活動」(四〇・12)とあるが、「立

派な」にはどのような意味が込められているか。それを説明した次の文の空欄に入る適切な語句を、本文中から十字以内で抜き出せ。**思**

「文中から十字以内で抜き出せ。**思**

経済活動として最低限必要な条件を満たしており、

「何らの不都合はない(9字)(四〇・1)

▼四一頁▲

補充 「ある種の嫌悪感」(四一・3)を具体的に説明せよ。**思**

答 男だけが突出して幸運なのは、何かあくどい事をしたためではないかと否定的にとらえる感情。

「男だけが突出して幸運なのは、何かあくどい事をしたためではないかと否定的にとらえる感情。」

発問 「わらしべ男の生き方を非難する人は少なからうと思う」(四一・9)のはなぜか。思

答 わらしべ男以外の人も豊かになった話加わると、男だけが突出して幸運になった印象が消え、わらしべ男が何かあくどい事をしたと推測されなくなるから。

発問 「わらしべ長者的」(四一・12)とは、どういうことか。思

答 何らかの労力をさいて、自分が作り出したものではないものを手に入れて、少しずつ利益を積み重ねること。

発問 「この点」(四一・15)とは、どのような点か。思

答 人によって一度の取引で得られるもうけの程度と質に差がある点。

発問 「四回の取引」(四一・15)について男は何を何と取引したか、順に答えよ。思

答 一回目…わらしべをミカンと。

二回目…ミカンを反物と。

三回目…反物を馬と。

四回目…馬を屋敷と。

補充 「これをして」(四一・16)とは、ここでは具体的にどのような意味か。思

答 わらしべ男が長者になるためにわずか四回の取引しか要さなかったということを理由にして、という意味。

▼四二頁▲

脚問 「経済学的な考え方の普遍性」(四二・5)とは、どういうことか。思

答 自発的な交換によって得られる価値の創造といった考え方が、時代や場所に左右されず存在するということ。

補充 「経済学的な考え方の普遍性」(四二・5)と

あるが、「普遍」の対義語を本文中から抜き出せ。

知 特殊(四〇・10)

発問 「ブータンで語られる話」(四二・6)について男は何を何と取引したか、省略されている部分(省略)として順に答えよ。思

答 宝石を馬と。馬を牛と。牛を羊と。(省略)鳥を歌と。

発問 「ブータンで語られる話」(四二・6)が日本の「わらしべ長者」の話と最も大きく異なる点は何か。思

答 「わらしべ長者」の話が順に市場価値の高い物と取引していくのに対して、ブータンの話は順に市場価値の低い物と取引していく点。

補充 「こういう人物こそ、人生で本当に大きな利益を得られるものではないかと、私は思う」(四二・14)という筆者の主張を説明した次の文の空欄に入る適切な語句を、後からそれぞれ選べ。思

「 1 」から始まった交換によって、最終的に「 2 」を手に入れた男が「幸せな顔をして立ち去った」ことからわかるとおり、
「 3 」とは必ずしも「 4 」や
「 5 」を多く手に入れることを意味するのではなく、「 6 」によって「 7 」よりも「 8 」の方が幸福な状態であることが大切なのである。

ア 自発的な交換

イ 宝石

ウ 土地

エ 交換による経済学的価値の創造

オ 金銭

カ 歌

キ 交換前

ク 交換後

答 1 イ 2 カ 3 エ 4 オ(ウ) 5 ウ(オ)

6 ア 7 キ 8 ク

▼思考力問題▲

【補充】

次は、『わらしべ長者』の『経済学』についての会話文である。空欄1・2に入る語として最も適当な組み合わせを、後から選べ。【思】

生徒A 本文に「取引に参加したすべての人たちは利益を受け取ることができる」とあるけれど、現代社会においてはみな利益を受け取ることができているよね。

生徒B 例えば、物を売買する場合を考えると、みな利益を得ているようにも思うけど、筆者の言う「取引における利益」とは金銭的な利益のことだけを指すのではないよね。

生徒C 新聞で読んだのだけれど、経済的に困っている人を支援する目的で、物々交換をするプロジェクトがあるそうだよ。プロジェクトの担当者が述べていた、「物々交換によって、人と人とのつながりが生まれたり、それを実感できたりすることにも意味がある」という話が印象的だったな。

生徒D 交換による「1」な豊かさを重視しているという点で筆者の考え方に通じるね。

生徒E 商品の「2」な価値よりも、自分にとつてどのような価値があるか、相手にとつてどのような価値があるか、を考えることが大切だということだよな。

- ア 1 物質的 2 世俗的
- イ 1 経済的 2 主観的
- ウ 1 精神的 2 客観的
- エ 1 現実的 2 創造的

【答】

ウ

▼てびき▲

学習

1 本文をその内容から三つの段落に分けてみよう。【思】

【答】

第一段落 三六頁1行目〜三九頁10行目
第二段落 三九頁11行目〜四二頁3行目
第三段落 四二頁4行目〜四二頁15行目

2

「わらしべ長者」の「男」がした具体的な経済活

動を三つに整理してみよう。【思】

【答】

①（わらしべにアブを結びつけて、おもちゃにするという）人を喜ばせる創造的なアイデアで対価を得た点。

② 死にそうな馬を買い取るというリスクの大きい事業に投資した結果、富を得た点。

③ 欲している人の元に物を動かして利益を得た点。

3 「こういう人物こそ、人生で本当に大きな利益を得られる」と筆者が言うのはなぜか。説明してみよう。【思】

【答例】

（例1）商品の客観的価値を推し量ることなどせず、あくまで自分にとって価値があるかどうかを判断基準として取引をしているから。

（例2）物質的充足を至上の価値とするのではなく、精神的充足にも重きを置いているから。

（例3）商品の価値の判断基準が世俗的なものではなく独自性があるため、他の人々が思ってもみなかった価値を掘り起こして提示することも可能だと考えられるから。

言語活動

1 世界中に「わらしべ長者」に似た昔話があるのは、経済学的な普遍性があるからだという本文を読んだ、自分の考えを四百字程度にまとめ、意見交換をしてみよう。【思】

【解答例】

筆者は「わらしべ長者」に自発的交換による価値創造の原則を見出し、そのような読み方こそが「わらしべ長者」の本質的な理解につながると考える。私は、この考え方に基本的に賛成である。わらしべを持った男が長者にならなければ、そもそもこの昔話は成立しなかっただろうし、男と物々交換する人々にも何らかの利益があったからこそ、「わらしべ長者」が昔話として民衆に享受されてきたと思うからだ。ただ、「わらしべ長者」の成功の発端に観音さまのお告げがあったことも見逃せない。男はこれをお告げを信じたからこそ長者になったのである。ここから「観音さまのお告げを守れば、やがていいことがある」といった仏教的な教訓も導かれるだろう。むしろ、そのような読み方こそが「わらし

べ長者」本来の読み方だったのでないだろうか。そうだとすれば、「わらしべ長者」を「勞せずして大もうけ」の意味に解釈する世間一般の見解も、「わらしべ長者」の経済的側面のみをとりあげて評価する筆者の見解も、きわめて今日的なものであると見ることもできるだろう。(四四五字)

ことばと表現

1 次の(1)～(3)を用いて、短文を作ってみよう。知

(1) 一堂に会する

(2) 右から左

(3) 一国一城の主

答例 (1)オリンピックは、四年に一度、世界中のアス

リートたちが一堂に会する機会である。

(2)急な出費が重なり、給料は右から左に流れていった。

(3)彼は、将来、一国一城の主として、小さくてもいいから自分の店を構えたいと思っている。